平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果　（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3090100078		
法人名	有限会社　プログレス		
事業所名	グループホームあい楠見　【　ユニット名：こもれび　】		
所在地	和歌山市楠見中197-8		
自己評価作成日	平成28年2月12日	評価結果市町村受理日	平成28年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3090100078-00&PrefCd=30&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52　ハラダビル2F
訪問調査日	平成28年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームあい楠見は地域密着型の複合施設で他のサービスを利用して頂いている方とのコミュニケーションや合同での催しで入所者様の生活に楽しみを持ち、活性化されることで身体的にも精神的にも元気に生活が送れるよう支援しています。又、グループと医療機関が連携することで健康面の不安にも対応しています。毎日職員と入所者様がおやつを一緒に作ることが定着しており楽しみの一つとなっています。又、ユニットごとにそれぞれの特色もありますが合同でレクリエーションをすることで、交流の場が広がっています。どちらのユニットも落ち着いた雰囲気の中毎日を過ごして頂けるよう心掛けています。地域ボランティアの方も来所して下さる方が少しずつ多くなり、今後も地域に密着した施設作りに取り組んでいきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域密着型複合介護施設の2階部分にある2ユニットそれぞれが独自の理念を掲げ、事業所理念「愛のある暮らし」の実践に努めている。利用者と職員が一緒に行う作品作りが日常的に行われており、ちぎり絵や折り紙等、それぞれのユニットで趣向を凝らした作品が制作され掲示されている。また職員と利用者が一緒におやつを作ることが定着しており、おやつ作りの中でいろいろな会話が生まれ、職員と利用者が和気あいあいと楽しそうな雰囲気でおやつ作りを楽しんでいる様子がみられる。外出支援にも力を入れ、利用者との日常の会話や様子から行きたいところを見つけ、それに沿って本人の馴染みの場所へ外出するなど、一人ひとりの気持ちを聞きながら計画的に外出できるよう取り組んでいる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各部署に掲示し意識付けることで共有し実践につなげている。	全体の理念「愛ある暮らし」をもとに、各ユニットごとに理念を作り、「地域の中での暮らし」を大切にしている。言葉だけでなく言葉の意味を業務の中で職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの参加や自治会の溝掃除の参加で少しでも地域の一員として交流出来る機会を持っている	地域とのつながりを大切にして、近隣の小学校で行われる地域の文化祭や地域の祭りに出かけている。事業所の夏祭りは地域の人にも楽しんでもらえるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方に来て頂きふれあいの中で少しずつ理解し知識が深められるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて入所者様の近況報告等を行い意見を伺うことでサービス向上に取り組んでいる	運営推進会議には、利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員の参加がある。会議の中で、民生委員からは地域の行事の開催などの情報が提供され、地域との交流や外出支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所者様に新たな課題が発生した際には市町村担当者に相談しサービスの検討をしている。	市役所の窓口には、更新時や提出物のあるときは必ず寄るようにしている。地域包括支援センターとは連携を密にして情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し定期的な会議を開催し、スタッフ会議で発表することにより職員全体に周知している。又、内部研修での勉強会の開催とベッドからの転落の危険のある方にはベッドを使用せずに対応する等の工夫をしている。	内部研修では、「ちょっと待って」などの言葉による拘束についても取り上げ、身体拘束について職員間で話し合い、拘束しないケアの実践に努めている。知らないうちに好ましくない声掛けをしていても気づいて改められるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修にて勉強会を開き、職員に周知徹底し防止に努めている。又、働く職場環境の整備や職員のストレス等虐待が起こりうる原因を軽減している。		

【評価機関】一般社団法人和歌山県認知症支援協会

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に毎年参加し、参加した職員が職場内の勉強会にて発表し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者様や家人様に疑問点がないか確認しながら説明し、納得して頂けるよう努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際や家人様来所の際に状況を伝え、家人様の意見や要望を聴き運営に反映出来るようにしている。	家族が意見や要望を話す場は特に設けていないが、家族との関係を大切に考え、家族が行事に参加しやすいよう工夫している。意見や要望があれば、家族の訪問時に話してもらえるよう心がけている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スッタフ会議や部署会議にて職員の意見を聞き、リーダー会議や責任者会議にて反映出来るようにしている。	ユニット会議は職員の意見を聞き、話し合える場となっている。必要に応じて、スタッフ会議やリーダー会議、管理職会議で検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの意見に普段より耳を傾け、施設長・管理者が参加する責任者会議にて話し合い働きやすい職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	家人様が来所された際は日頃の様子を伝えたりカンファレンスの開催で都度家人様の要望や意見を聴き一緒に考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の勉強会や交流会に参加し、情報交換することでサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より担当職員を決め本人様とコミュニケーションを図っていく中で要望や不安等に気付き生活の中で信頼関係を築いていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家人様との話し合いの時間をもち情報を頂き意見や要望等に耳を傾け安心した生活が送れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所者様の今までの生活を傾聴し必要な生活の支援の把握に努めている。又、センター方式等を用いてアセスメントを行い他のサービスが必要な時は家人様と相談しながら進めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で役割を持って頂き出来る事は自己にてして頂くように促し、一緒に考え一緒にすることでよりよい関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人様が来所された際は日頃の様子を伝えたりカンファレンスの開催で都度家人様の要望や意見を聴き一緒に考えている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の思い出話等から懐かしい場所にドライブに外出する機会を持つようにしている。	普段の会話の中から聞き取ったその人にとっての懐かしい場所にドライブに出かけている。1階のデイサービスの利用者とカラオケを楽しむなど、施設内での馴染みの人との関係も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等にみんなで参加することで入所者様同士良い関係作りが出来るよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居や退居された入所者様に対しても情報提供し支援していくように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行いその人らしさを引き出し、行動や言動を気にかけ検討し改善していく。	ケア会議には、家族や本人が参加することもあり、利用者の思いや意向に沿った暮らしが出来るよう、担当職員や家族の意見を聞きながら日々の暮らしに反映できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式や家人様からこれまでの生活歴等を聴き取ることで馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者様との会話の中でささいな変化に気付き、スタッフ間での申し送りや伝達により現状の把握に努めている		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを開催し、家人様にも参加して頂き一緒に検討している。定期的なモニタリングを実施することで新たなニーズが発生していないか等常に検討している。	定期的に話し合いを持ち、利用者の思いや家族の意見を聞いて作成している。生活支援計画書の内容が抽象的で利用者の目標、評価が曖昧になっているところがみられる。	計画作成において、スモールステップで具体的な計画を立てることで、変化が確認しやすくなり、より分かりやすい内容に繋がっていくことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日常の行動や言動を記録し計画書の見直し時には参考に出来るように記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々コミュニケーションをとるなかで柔軟に対応できるよう取り組んでいる。又、新たなニーズが現れた時にはそのニーズへの実現に向けたカンファレンスの開催をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方の協力を頂き色々な取り組みを実施することで楽しみのある生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師、又はかかりつけ医と連携をとり必要に応じてサマリーの作成をすることで適切な医療を受けられるように支援し、本人様の希望も大切にしている。	入居後は、月１回の応診があり、緊急時にもすぐに受診できることから、殆どの人が希望して連携する系列病院をかかりつけ医に選んでいる。皮膚科などの専門医への受診は家族で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者様の体調管理を行い、体調変化や異変に気付いた時には看護師に相談することで適切な診断で受診等受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には自施設のサマリーや基本情報を提供し情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化への対応、終末期における対応の指針の説明をし同意を頂いている。又、終末期となった場合はカンファレンスをこまめに開催し、家人様の要望に近づけるようなチームケアに取り組んでいる。	年2回災害時の訓練を職員は行っているが、利用者を交え実際の災害を想定した訓練は行われていない。	緊急時の利用者の動きは想定外のことも多く、安全に避難できるよう、実際に利用者を交えた訓練を実施することが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、勉強会を実施し実践的なことも取り入れることで対応を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルにグループ施設との連携の仕方や職員の緊急連絡網を作成し、自施設にて訓練も定期的に行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様の居室への訪室時には必ず声掛けを行い、内容によっては声を小さくする等プライバシーに注意しながら声掛けを行っている。	「その人の嫌なことは言わない」と職員間で決め、日々心がけている。プライバシーにかかわる声掛けは小声で行うようにするなど、その人一人ひとりに合わせた配慮がみられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より入所者様とのコミュニケーションを図り信頼関係が結べるように努め、本人様の思いや希望を表出しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われることなく、一人一人のペースに合わせ、その人らしく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて家人様に衣服を用意して頂き自己決定して頂けるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のおやつは入所者様の意見やアドバイスを聞きながら一緒に作り、誕生日会のイベントでは誕生月の入所者様の好みのメニューに添えるように努めている。	食事は外部委託であるが、ご飯を炊く、味噌汁を作る、おやつを作る等はユニットで行い、食事が用意される雰囲気が伝わるよう工夫している。外食も年2回程度行い、弁当持参で花見等に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分量をチェックし摂取状態を把握している。又、毎月の体重測定で栄養状態を確認しながら食事形態の見直しも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛けを行い口腔ケアを促し、介助を要する入所者様には介助を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者様個々に排泄チェックを実施し、排泄パターンを把握している。又、表情や行動を観察しながら声掛けを行っている。	夜間は、利用者の状況に合わせてトイレ、ポータブルトイレ、オムツ等、その人の気持ちに配慮した対応を心がけている。尿取りパットやリハビリパンツ、おむつ等はその人に合ったものを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から体操や散歩を行ったり水分摂取量をチェックしている。又、おやつ時には食物繊維の多い材料を使い作るように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所者様の希望に合わせて入浴の回数を決定している。曜日は決めているが臨機応変に対応できるように行っている。	夕食後の入浴にも対応し、希望の時間に入浴できるよう配慮している。拒否しがちな人も無理なく入浴できるよう工夫し、体調の悪い人には足浴を行う等、少しでも爽快感を感じてもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者様に合わせて明かりを調節したり、大切にしている物等頭元に置き安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は保管し職員も目を通すようにしている。又、受診時に薬の変更があれば、状態の変化に気を配れるように看護師と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者様が出来ることや好むことを把握した上で役割を持って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週末には入所者様の希望を聞き目的地を決めドライブを実施している。	利用者の行きたいところ、馴染みの場所へドライブに出かけている。散歩に出ることはあまりないが、時折歩いて出かけ、近隣の法人が運営するデイサービスセンターを訪問している。必要に応じて個別の買い物にも職員が同行している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きたいと要望があれば職員が付き添い実施する。支払いは必要時には手助けしながら見守り援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者様から電話の要望があった際は事前に家人様と話をしておき職員介助の元実施している。又、年末には年賀状を家人様に送付できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの整理整頓を心掛け、施設内には季節に応じて入所者様と共に飾り作りを行っている。	食堂・リビング部分は利用者がつどい、作品制作やおやつ作りを楽しめる生活感のある空間となっている。協同制作した作品や季節に応じた飾りつけで、それぞれのユニットごとに異なる趣となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にもテーブルと椅子を設置しくつろげる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた物を持って来て頂いたり、写真を貼ったり、家人様より情報を聴き快適に過ごせるような空間作りをしている。	写真を飾ったり、自宅で使っているものを置いたりしている。本人の入居前の生活状況を聞き、以前の生活が継続できるような空間作りを心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前と顔写真入りの表札を作り、入所者様自身にて居室に戻れるよう工夫している。		

【評価機関】一般社団法人和歌山県認知症支援協会